



The 68th JAMT Congress 2019 Shimonoeki

第 68 回 日本医学検査学会 in 下関
ランチョンセミナー 2

2019

5/18 土

12:00~13:00

もう慌てない！

基礎から学ぶ 結核と IGRA 検査

座長

小森 敏明 先生

長浜バイオ大学
フロンティアバイオサイエンス学科
臨床検査学コース 教授

演者

小林 信明 先生

横浜市立大学大学院
医学研究科
呼吸器病学 講師

会場

第 3 会場 エメラルド A (シーモールパレス 3 階)

もう慌てない！ 基礎から学ぶ 結核と IGRA 検査

小林 信明 先生 横浜市立大学大学院 医学研究科 呼吸器病学 講師

本邦の結核感染症は、結核診療の進歩や保健行政の取り組み、生活環境の改善などにより着実に減少しています。一方で、国民 10 万人あたりの罹患率は 13 人超と国際的な水準では中蔓延国であり、医療従事者が遭遇する機会も決して稀ではありません。また、年に数回は医療機関での集団発生例が報道され、感染制御の観点からも常に注意を払う必要があります。国は、2020 年までに 10 万人あたりの罹患率を 10 以下にすることを目標としており、そのためには早期の診断、適切な治療、感染拡大の防止など全方位的な取り組みが必要です。

WHO も結核感染症の撲滅を目指しており、活動性結核の適切な治療、管理だけでなく、特に先進国および結核中蔓延国においては結核発症リスクの高い症例に対する潜在性結核感染症 (latent tuberculosis infection : LTBI) の治療が重要であると指摘しています。LTBI とは宿主の中で結核が潜在して感染している状態であり、免疫力の低下や加齢などを契機として活動性結核を発症し得る状態で、発症リスクが高い場合、新規感染が疑われる症例 (接触者健診陽性例など) では治療対象となります。本邦では高齢者や生物学的製剤投与症例などの増加により高リスク症例が多いため、着実な LTBI 治療は結核対策に特に有効であると考えられます。

IGRA (interferon-gamma release assay) は、BCG 接種が行われている我が国において LTBI 診断に特に有用で広く利用されていますが、結核感染後に陽転化する時期や再現性に問題があるとの指摘があること、判定不可 (判定不能) 例の対応などの解決すべき課題が指摘されています。

本セミナーでは、結核に関する基本的な知識の再確認と最近の知見のアップデートをさせて頂き、更に結核診断における IGRA、T-スポット® .TB の特性について概説します。

Access

シーモールパレス

〒750-0025

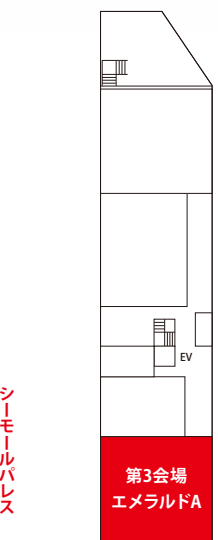
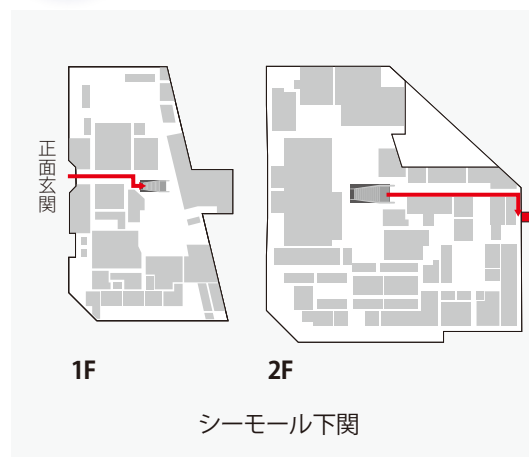
山口県下関市竹崎町 4 丁目 4-8



Floor Map

第3会場 エメラルド A

シーモールパレス 3 階



シーモールパレス 3F

シーモールパレス 3F へは、シーモールパレス内の階段をご利用ください。

- 福岡空港 | 地下鉄・新幹線 博多駅から小倉駅まで 16 分、小倉駅から下関駅まで 15 分
- 北九州空港 | 連絡バス 小倉駅まで 33 分、小倉駅から下関駅まで 15 分
- 山口宇部空港 | 連絡バス 下関駅まで 95 分

- JR 線 | 山陽本線 新下関駅から下関駅まで 9 分
鹿兒島本線 小倉駅から下関駅まで 15 分
- タクシー | 新下関駅から 25 分